

## 令和5年度 事業報告

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

令和5年度は、コロナ感染症がインフルエンザ並みの扱いになったことによる社会経済活動の平常化とともに、鉄骨需要も大型再開発案件等の需要が堅調に推移して工場稼働が端境期を脱し大きく改善することが期待された。しかしながら、建設諸物価の高騰や人材不足等の影響もあり、令和5年度の鉄骨需要は、暦年ベースに続き400万トン割れの391万トンと大変厳しい状況となったが、首都圏では多くの大型再開発等が計画されていることから、輸送等の2024年問題への対応を始めとして、円滑な工場稼働の確保が図られるよう備えてきた。

一方、鉄構業界の採算面においては、鉄骨単価は上昇しているものの、鋼材等の高騰に伴うものであり、人材不足解消、働き方改革に対応するための労務費を確保するには至らなかった。特に求められている生産性向上のベースとなる図面確定の遅さの影響は深刻で、鉄構業界におけるプロフェッショナルな人材の不足が図らずも露呈することとなった。

このような状況下で委員会活動などは、ウェブ会議なども併用し、年度を通じて予定通りに行うことができた。また、正会員及び賛助会員との意見交換会を開催し、情報共有等を通じて会員間の連携強化を図ることができた。

陳情活動については、「今後の繁忙期に向けた取り組み」を主テーマに、ゼネコンには、「鉄骨製作工程表の確実な合意確認」「働き方改革への適切な対応」について要望を行った。特に働き方改革に関しては、建設現場の4週8閉所の早期実現、製品輸送の荷卸しを3時間以内に行うことを前提とした搬入計画の作成などを求めた。その他現場が抱える諸課題に関して理解を求めるための文書を作成し水平展開をお願いした。

設計事務所には、図面の早期決定による繁忙期対応、ミルシートへの物件名記載の省略による鋼材の有効活用などを求めた。

高炉メーカーとは、鋼材の価格・納期に関して意見交換し、鋼材の安定供給などを求めた。

また、働き方改革に関連して、会員がゼネコンに対し工事現場に対応した輸送条件書（輸送タイムバー）を提示できるよう、そのひな型を作成し周知を図ったほか、建設キャリアアップシステムと連動した現場技能者向けの技能者能力評価制度の導入に取り組むことを決定した。

その他、コロナ禍で中止していた海外調査、技術発表会を4年振りに実施することができたほか、主要事業であった新年賀詞交歓会を開催し、会員のみならず多くの関係者が一同に会し、新たな知見の共有や連帯を深めることができた。